

聞思

寺報

MONSHI

第15号

2021年11月

発行



浄土真宗
本願寺派

田野山西敬寺



西敬寺蔵 「大谷本願寺親鸞聖人之縁起（御絵伝）」

報恩講法要に際して本堂に奉懸されます。今から326年前【元禄8（1695）年】に本願寺の絵師によって丁寧に描かれ彩色された貴重な法物です。是非、ご参詣頂きゆっくりとご覧下さい。尚、本年の報恩講法要は12月19日（日）となります。

詳しくは、同封の別紙「報恩講法要のご案内」をご確認下さいませ。

目次

法話 報恩講によせて 住職 木賣 慈教	2
西敬寺歳時記（2021年 7月～10月）	4
連載 いまどきの終活の作法 ～大切なひとに負担をかけないために～	6
第12回「あらためて考えてみましょう終活は必要か？」	
復興支援活動報告	8



西敬寺
公式サイト



西敬寺公式
LINE



西敬寺への
アクセス



住職法話
YouTube

〒381-0016 長野市南堀336 電話 026-243-5570 FAX 026-403-2400

西敬寺公式サイト <https://www.tanozan-saikyoji.jp/>

令和3年度
(仏暦2564年)

西敬寺報恩講法要

12月19(日) 並びに物故者追悼法要

詳細・お問い合わせ・お申し込み方法は同封のご案内チラシにてご確認ください。

「報恩講法要」は「門徒総参拝法要」とも言われ、古来から門信徒の皆様と準備も含め大切にお勤めして参りました。昨年に引き続き感染症に細心の注意を払い開催致しますので、何卒ご参加の程宜しくお願い申し上げます。

以下に、大切な報恩講法要をお迎えするにあたり『本願寺新報』（2013年10月20日号）に掲載された住職の法話を加筆修正し転載致します。

報恩講に寄せて「恩」と言う言葉

西敬寺住職・本願寺派布教使 木賣 慈教

なされたことを知る

「恩」という言葉を皆さんは日々の生活の中で、どれくらいお使いになつていてでしょうか。代表的な表現として「恩返し」という言葉がありますが、「恩」は返しきれものという考え方があるように思います。

「恩」はご承知のように「恵」という意味ですが、その原語とされるものは『仏教語辞典』にパリー語の「カタンニユ」で「なされたことを知る者」とあり、「恩とは、何がなされ、今日の状態の原因は何であるかを、心に深く考えることである」と解説されています。ここから考えますと、「恩」とはこちらから求めて「なされたこと」ではなく、求めるより先に「なされたこと」であり、決して見返りを求めないものと受けとめることができます。しかし、私たちは果たしてどれほど「なされたこと」を知っているのでしょうか・・・。

返しきれない恩

三十年前、先代の住職であった父がクモ膜下出血によって急逝しました。悲しみと混乱の中から逃げ出そうとしていました。そんな私に

大学生活を送る猶予を与えてくれたのが代務住職を担ってくれた大叔父（上宮山西榮寺御住職 富野宣明師）でした。

その大叔父が十年前、当寺の報恩講が営まれたその日に往生の素懐を遂げました。ご葬儀での弔辞を任された私は、あらためて大叔父が「なされたこと」をご門徒そして坊守であった母から知らされました。



西敬寺報恩講にてご法話に

続き御文章を拝読される宣明師

「雨の日も雪の日も自転車でお晨朝のために通つてくださり、時に転ばれてけがをされても、休まれることはなかった」「法務の空き時間には、器用にお仏具のお手入れや本堂の補修をされていたなあ。そう言えば、本堂の講演台は、手作りされたものだよ」「誰よりもあなたの帰りを待っていた。でも、それを決して焦らなかつた方だよ」と。

知つたつもりで弔辞の最後を「ご恩返し」とまとめようとしていた自分が恥ずかしくなりました。私は、今まで所詮知つた範囲でしかお礼を申せていなかった。あらためて「なされたこと」を知らされて、生涯をかけても返しきれない尊いお育てをいただいていたのだと痛感したのでした。

阿弥陀さまのご恩

毎日おつとめさせていただいている「正信

偈」は、親鸞聖人が著された『教行信証』というご書物の「行巻」にあります、聖人は「正信偈」をお書きになろうとするお気持ちに「しかれば大聖(釈尊)の真言(真実なる教え)に帰し、大祖(七高僧)の解釈に閲して、仏恩(阿弥陀仏のご恩)の深遠なるを信知して、正信念仏偈を作りていはく」と表していられつやいます。

聖人は、釈尊そして七高僧が、阿弥陀如来さまが私たちを救わんとして「なされたこと」を

明らかにしてくださつたと心の底からよろこび、そのお徳を讃えて報いていかれたことがうかがわれます。

ある年の報恩講で大叔父が「正信偈」について、「たとえるならば、阿弥陀如来さまが『南無阿弥陀仏』という薬を完成されて、釈尊はこの薬の効能を説かれ、七高僧はこの薬を大いに宣伝されお勧めくださり、そして聖人はこの薬を服用されて私たちにはそのはたらきを示してくださいました」と聞かせてくれました。



平成9年(1997)年4月 住職継職奉告法要にて5年半に渡つた代務住職を振り返りご挨拶される宣明師

恩送り

私は大叔父の「なされたこと」を知ることもしなければ、多くの人々の「なされたこと」も知らうとしませんでした。しかし、このような者を「見捨てはしない必ず救う」と誓われた阿弥陀如来さまであることを示され、自らも阿弥陀

如来さまのお誓いを頼りに生涯を送られたのが親鸞聖人です。報恩講は、そのご遺徳を讃えご恩に報いる法要です。ご恩に報いるとは、蓮如上人が「他力の信心をとりて」と仰せのごとく、聖人がなされたように阿弥陀如来さまのお誓いのままにお念仏することです。

聖人の三十三回忌以来、先人たちは報恩講を脈々と営み、返しきれないご恩と深く感謝し、有縁の人々にその「恩」を送り続け、この私に届けてくださつたとよろこばせていただいております。

*原文は、本願寺公式サイト

「深く知る、仏事・行事」にてもご覧頂けます。



平成五(一九九三)年八月十三日
得度を終えたばかりの住職(二十歳)と宣明師

歳時記 (7月～10月)



感染症対策として定員の半数(70名)での講座となりましたが、受講生の方が、西敬寺の「終/宗活公開講座」にもご興味を持って頂き実際にご参加下さいました。ご縁の広がりを感じております。

昨年度より、住職が長野シニア大学長野学部教授を拝命することになりましたが、コロナ禍によって、一年スライド開講となり、七月五・六日に二年生七十名の方々と初めてご一緒させて頂きました。

講義内容に関して、事務局から「コロナ禍にあつてシニアの方々が前向きに元気になつていただけるものを」ということで、「これからが、これまでを決める」〜仏教に学ぶ私らしく歩むヒント〜と言うテーマでワークショップを交えながら初めての講義を務めました。有難いことに受講生の方々からのアンケートで高いご評価を頂き、次年度以降もご縁を頂くことになっております。ご興味のある方は、長野県長寿開発センターにお電話にてお問い合わせ下さい。(注:ご入学資格は長野市にお住まいの五十歳以上の方となります。)

長野県長寿社会開発センター
TEL026-228-7023

継続的な学びの場再開

コロナ禍で延期を重ねていました第三期「西敬寺連続研修会」の第一回が七月十日にようやく開催されました。

スライド開催の影響で、当初ご参加を予定された方々から第四期へのご移動のご希望もあり、少し寂しい参加者十名での開催の運びとなりました。

第一回ということで、初対面の方々のアイスブレイクとして、感染症対策「グータッチ」で自己紹介タイムを設け和やかに始まりました。世代を超えたグータッチは、微笑ましく緊張が解けて行くように感じました。



参加記念の「門徒式章」を着用して頂いている場面。
第3期は来年8月まで毎月第2土曜日(1・2月は冬季休講)に開催します。
尚、第4期は来年9月に開講します。(募集は来年五月からの予定です。)是非、ご参加をご検討下さいませ。

【門徒式章】とは、僧侶が法要儀式を勤める際に仏前に出る時、法衣・袈裟で正装すると同様、門信徒の皆様が仏前に出る時の正装に用います。

連続研修会ご参加の皆様には西敬寺オリジナルの「聞思会」式章を記念品としてご準備しています。

西敬寺の五年後の姿

西敬寺の現在の取り組みを点検し、五年後のあるべき姿を検討したいと考え、宗派公式プログラム「お寺のビジョン作成研修」を坊守として門信徒を代表して佐藤浩一様と受講しております。

実は、住職が寺院運営や布教活動のお手本とさせて頂いている島根県温泉津の西楽寺菅原昭生ご住職が講師を務められることが受講のきっかけとなりました。

浄土真宗本願寺派「寺院サポート研修」
お寺のビジョン作成研修
～お寺のみならず寺院運営計画書を作ろう！～

- 第1回 「外部環境分析・お寺の使命」
- 第2回 「無形の価値・ビジョン」
- 第3回 「マーケティング」
- 第4回 「寺院運営計画発表」

今回は、感染症対策を踏まえてのオンライン開催となっており、七月に第一回「外部環境分析・お寺の使命」ーお寺の使命の探求と外部環境の把握ー、八月に第二回「無形の価値・ビジョン」ー無形の価値の視点から自坊の強みを見出し、お寺の将来像(ビジョン)を描くー、九月に第三回「マーケティング」ー受け手の視点から寺院運営計画を具体化するーを受講し、十二月の最終回では、オンラインで一緒に参加している寺院関係者の方々の前で西敬寺の五年後を見据えた「西敬寺運営計画」を発表します。

次号では、その様子と共に、作成した「運営計画書」をあらためて共有し皆様からのご意見を集めて参りたいと思います。

寺 敬 西 山 野 田



今年も「終戦の日」八月十五日に「非戦の鐘・全戦没者追悼法要」を開催致しました。昨年に引き続き感染症対策の為、人数制限をする中、初めてご参加された若い方々がいらっしやり終了後にお声掛けしたところ、コロナ禍にて施設に入所中で外出が出来ない祖父母様に「代わりに是非参加して来て欲しい。」と懇願されたとのことでした。



閉式に際し、十年間毎年ご参加頂いている新海寛 信州大学名誉教授 (上写真) より

教授のご挨拶を承けて任職より田中角栄元総理が新人議員に必ず掛けていたと言われる「戦争を知っている世代が政治の中枢にいるうちは心配ない。平和について議論する必要もない。だが、戦争を知らない世代が政治の中枢となったときはとても危ない」とのご薫陶をご紹介し、「来年は、ご自身の身近な若い方の手を取ってご一緒にお運び下さい！」とお願いしました。

本堂正面に日除けを設置



本堂正面左右の全面ガラスは、寒冷地であることを考慮してはめ込まれている為、昨今の想定以上の気温上昇により陽射し対策が懸案事項となっていました。

「お寺葬」でのロビーの使用が増えていることも踏まえ、担当設計士の林和秀さんにご尽力頂き、外観の美しさを損なわず遮熱性能の高いデザインを考え抜いて頂き日除けシートを設置致しました。 (右写真)

ご参詣の皆様にも大変好評で、「白壁と紺色のコントラストが美しい。」「下り藤の紋で、本堂の幔幕を思い出しました。」などと感想を頂いております。基本的には四月下旬〜十月上旬まで毎年設置することになりますのでご了承下さい。

「お寺葬」説明会開催

毎月第二日曜日に開催しております「終活公開講座」もお陰様で十六回を重ねております。十月は特別プログラムを組み、葬儀社「お寺でおみおくり」のスタッフにもご協力も頂き実際の葬儀用品の展示を行い午前・午後の二回実施しました。

伊藤安芸行政書士から「事前に考えておきたいーお葬式やお墓のことー」と題して特別講演頂き引き続き「お葬式は誰のため？」を切り口に西敬寺で推進している「お寺葬」に関して任職がご説明致しました。

今回は、新たにお寺とのお縁を求めていらっしゃる方々のご参加もあり新会員制度を入口とした具体的な説明にも力が入りました。「お寺葬に込めた想いに感激した」と涙して下さるご参加者もいらっしやり、あらため「お寺葬」への取り組みを真摯に行って行きたいと関係者一同決意を新たにしました。

西敬寺お寺葬の理念

- 一、ご往生されし「いのち」に感謝し、更には仏になられたことを讃える。
- 一、ご往生されし「いのち」から自らの「いのち」を問い直し目覚める。
- 一、ご往生されし「いのち」のお導きによってお浄土での再会を誓い合う。



今後の「終活公開講座」に関しましては、同封のご案内チラシをご覧くださいませ。

いまどきの終活の作法～大切なひとに負担をかけないために～

第12回 改めて考えてみましょう

終活は必要か？

皆さんこんにちは。行政書士の伊藤安芸です。今では一般的な「終活」という言葉。テレビや雑誌でも特集が組まれたりセミナーが開催されるなど知らない人はほとんどいなくなり、実際に取り組まれている方も多いと思います。今回は、一度立ち止まって終活は必要なのかを考え、必要ならどんな対策があるのかなどについて一緒に見ていきましょう。

1. 終活が注目される背景

1) 「終活」とは

今では一般的なワードになった「終活」ですが、そもそもは平成21年、週刊朝日による造語とされています。当初はお葬式やお墓など人生の終焉に向けての事前準備を意味していました。しかし、現在ではそこからもう一歩進んで「人生のエンディングを考えることで自分を見つめ、今をよりよく、自分らしく生きる活動」に変化しています。つまり、自分の最期を考えるなんて縁起でもない！という考えから、事前に準備をしておくことで将来の不安がなくなりより充実した人生を楽しむことができるという意識に変わっています。

2) 終活が注目される背景

- ・死に場所の変化→自宅でなくなる人と病院等で亡くなる人の逆転
- ・家族構成の変化→核家族化・個人化が進み地域社会（となり組）・親族との関係が希薄になり、かつては「黙っていても誰かがやってくれたこと」が自分でやらなければならないことになった（迷惑をかけたくないという思いに）。
- ・意識の変化→自己決定権（権利意識）が拡大し、自分の最期は自分で決めたいという思う人が増えた。
- ・平均寿命と健康寿命

平均寿命ほど健康寿命は延びていない。自立した生活が困難な期間がある。

	平均寿命	健康寿命	自立した生が困難な期間
男性	80.98	72.14	約 9年間
女性	87.14	74.79	約 12年間

2. 死とは

現代医学において死の定義は①心臓の停止②自発呼吸の停止③瞳孔の散大とされますが、終活を考える場合は「自己の不存在」と捉えます。これは、自分がそこ（この世）にいないことと言い換えることができます。つまり、何か相続等で揉め事が起きても自分はそこ（この世）にいないので、仲裁することもできないと言うことに他なりません。

3. 対策あれこれ

対策を考える場合、「生前と死後」や「ヒトモノカネ」といった切り口でどこに問題があるか、どこに問題が起ころうかを洗い出すことが重要です。その上で明るみになった問題に適した対策を講じていきましょう。

生前		死後	
問題点	対策	問題点	対策
認知症対策	成年後見制度（法定・任意） 家族信託	相続	遺言 エンディングノート 家族信託
医療介護	エンディングノート 尊厳死宣言書	お葬式等	エンディングノート
片付け (モノ)	墓じまい 家財等の処分	死後手続	死後事務委任契約

ヒト		カネ	
問題点	対策	問題点	対策
音信不通の相続人 前婚の子等	遺言 家族信託	医療介護費用	贈与 家族信託

※その他銀行口座の整理なども進めておくと遺族の負担軽減になります。

ここまでお読みいただきありがとうございました。

終活は現代社会ではやっておくべきことと言えます（結論）。そのキッカケとして毎月第2日曜日に開催されている「終/宗活公開講座」（詳細は同封のチラシをご覧ください。）にお運び下さい。ぜひこの機会にご自身を見つめ直し、状況に適した対策を講じて、より一層充実した人生を送りましょう。



事務所サイト

<https://www.office-angei.com/>

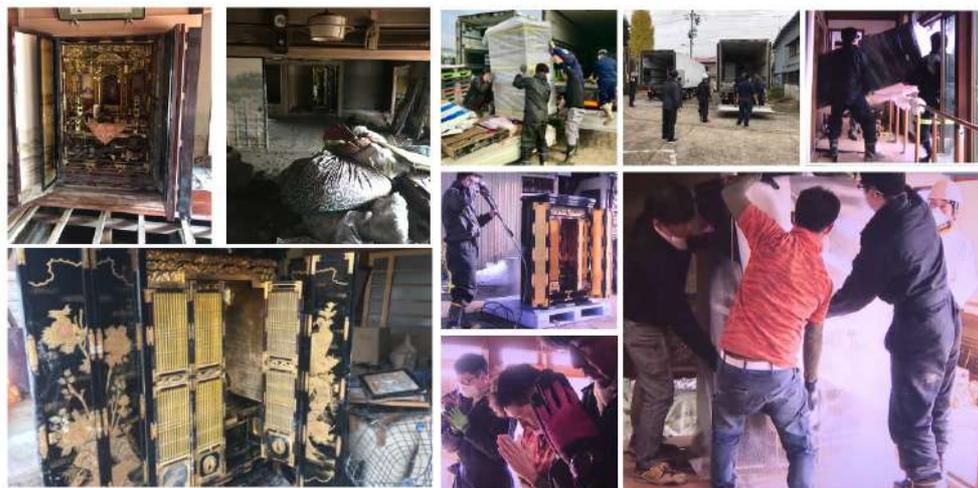
— ご意見・ご要望・ご質問などお気軽にお寄せ願います —

伊藤 安芸：行政書士伊藤安芸事務所代表

（行政書士・家族信託専門士・葬祭カウンセラー）

TEL026-219-6373 メール y-itoh@office-angei.com

復興支援活動報告



二年前の十一月三日に住職の呼びかけにお応え下さった二十四名の有志の方々とお仏壇の救出作業、ご遷仏法要を勤めさせて頂きました。(左上写真)

その後、本堂のご荘厳修復にご尽力頂きました「明石佛壇店」様のご協力でお仏壇をお預かり頂き、被災された方々の個々の復興状況や修復に関するご要望を住職が承りながら慎重に進めております。

ご自宅の修復を果たされた皆様からは「出来るだけ早くお仏壇を戻して頂きたい。」



とのご希望もあり、お盆前に「還着法要」のご縁を頂きました。(左下写真)

しかし、復興の明るい兆しを拝見すると同時に被災地の現状は厳しい状況が続いており、当然ながら個々に抱えられているご事情も違い復興の進行状況は異なることを痛感します。今後、被災されたご門徒の方々に寄り添い、ご要望をしっかりと聞き取り、焦らずじっくりと支援活動を続けて参ります。

皆様には引き続きご理解ご協力の程宜しくお願い申し上げます。



復興支援法要で皆様からお預かりした「支援金」にて新たに過去帳を新調し、住職が改めて記帳して「還着法要」に合わせてお届けしております。皆様の温かいご支援に重ねて御礼申し上げます。

ご法事(年回忌)をご検討中の皆様へ

令和4(2022)年 年回忌早見表	
回忌	ご往生された年
一周忌	令和 3 (2021) 年
三回忌	令和 2 (2020) 年
七回忌	平成28 (2016) 年
十三回忌	平成22 (2010) 年
十七回忌	平成16 (2004) 年
二十三回忌	平成12 (2000) 年
二十七回忌	平成 8 (1996) 年
三十三回忌	平成 2 (1990) 年
五十回忌	昭和48 (1973) 年

新しい「ご法要お申し込み書」を同封させて頂きました。初めて、ご法事を行われる方にも出来るだけ分かりやすく、ご安心して当日をお迎え頂けるようにと思いを込めて作成致しました。

現在、コロナ禍の影響でご法事を延期されていた方々からのお申し込みが増えております。たいへん恐縮ですが、来年年回忌に該当される皆様には早めのご相談をお願い申し上げます。

尚、「ご法要お申し込み書」は西敬寺公式サイト「西敬寺にできること」→「仏事よろず相談」を下へとスクロールして頂くとお申し込みダウンロードのボタンからご入手頂けます。

また、スマートフォンで右のQRコードからご入手頂けます。

